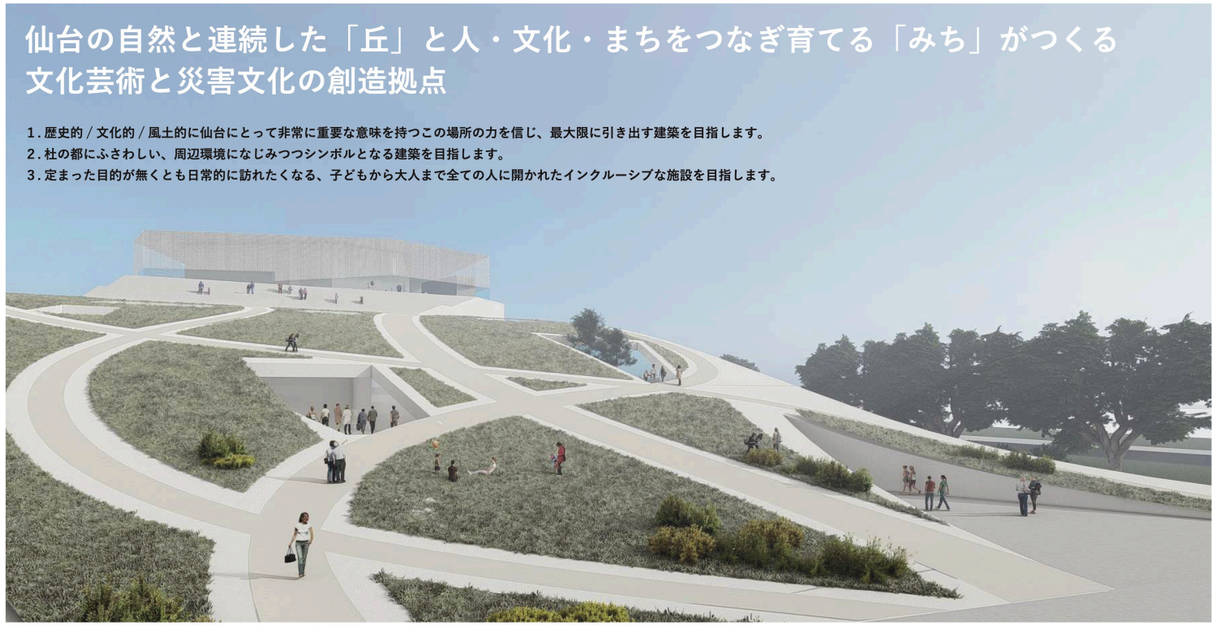
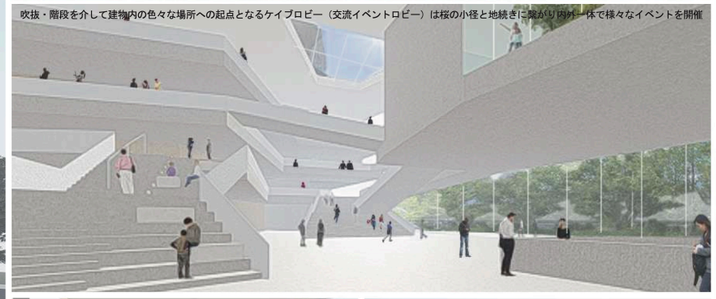
仙台の自然と連続した「丘」と人・文化・まちをつなぎ育てる「みち」がつくる
文化芸術と災害文化の創造拠点

1. 歴史的 / 文化的 / 風土的に仙台にとって非常に重要な意味を持つこの場所の力を信じ、最大限に引き出す建築を目指します。
2. 杜の都にふさわしい、周辺環境になじみつつシンボルとなる建築を目指します。
3. 定まった目的が無くとも日常的に訪れたくなる、子どもから大人まで全ての人に開かれたインクルーシブな施設を目指します。

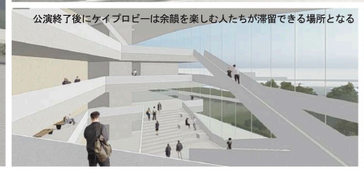


仲ノ瀬からの眺めでは震災メモリアル拠点のボリュームが木々の上に象徴的に浮かび上がる



吹抜・階段を介して建物内の色々な場所への起点となるケイプロビー（交流イベントロビー）は桜の小径と地続きに繋がり内外一体で様々なイベントを開催

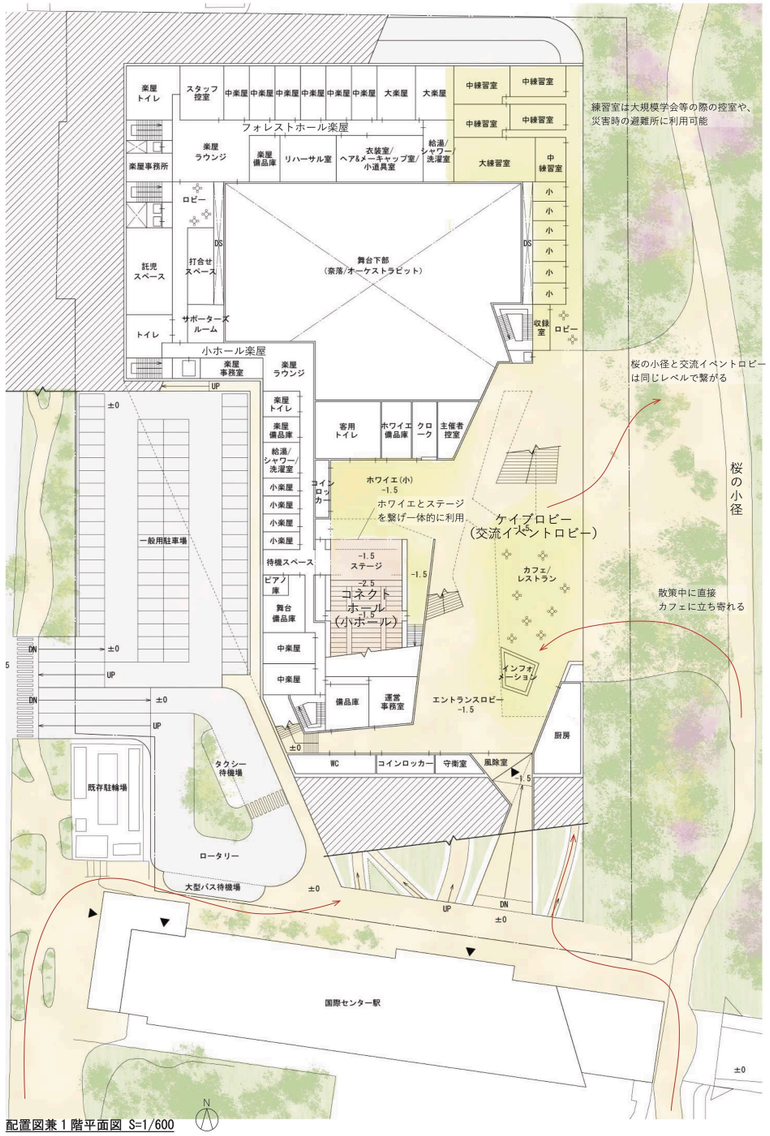
ふれあいと憩いの丘の最上部に位置する震災メモリアル拠点で、仙台のまち並みを眺めながら震災について学び、考える



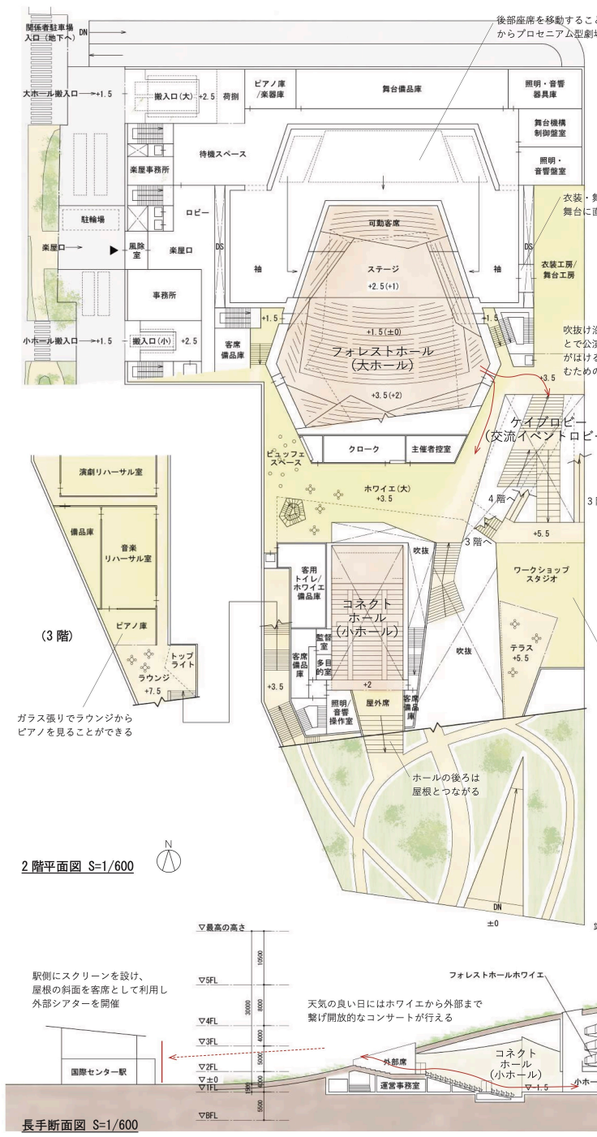
公演終了後にケイプロビーは余韻を楽しむ人たちが滞留できる場所となる

憩いの丘上部テラスより青葉山エリア全体を俯瞰する
駅の壁面と憩いの丘の斜面を利用して屋外シアターを楽しむことができる

上部のトップライトより木漏れ日が降り注ぐフォレストホール（大ホール）



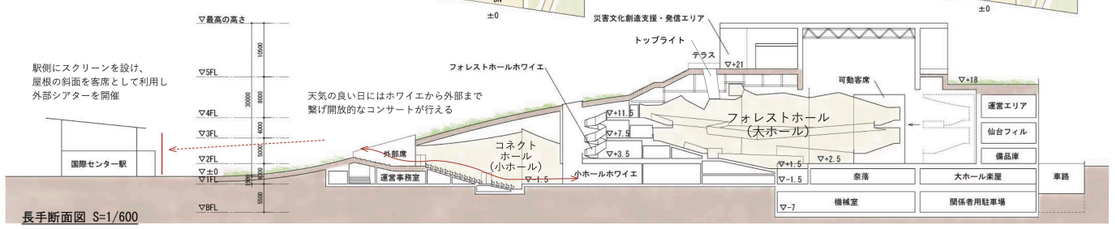
配置図兼１階平面図 S=1/600



2 階平面図 S=1/600

一番見晴らしの良い場所で敷地を超えた雄大な自然の中に身を置いていることを感じつつ思いにふける場所

5 階平面図 S=1/600

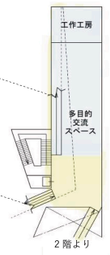


長手断面図 S=1/600

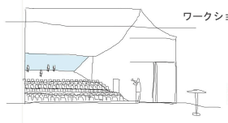
子どもから大人、高齢者、障がいのある方など全ての人がそれぞれに合った「みち」を選択でき、居心地よく滞在できる建築を目指します。

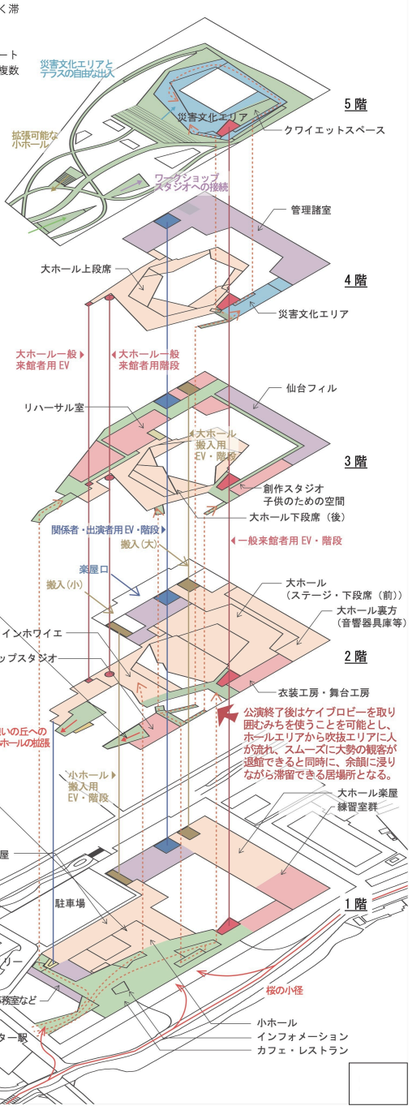
それぞれの機能へ向かう時に、一つの決められたルートのみだけではなく、来た目的や滞在時間にあわせて複数のルートが選択できる動線計画とします。

みちを憩うことのできる居場所としてつくることで、巨大な複合施設ならではの歩行距離の長さを、この施設にしかない特別な空間体験の一部とすることができます。



ワークショップスタジオは丘と連続するテラスに面し一体的に利用することができる



建具を開放すると小ホールホワイエから、憩いの丘まで空間がつながる

配置・動線計画